

## 【建設業動向調査概況】

### 1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は2024年7月から9月期(3期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

### 2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2024年10月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業41社
- (3) 回答企業数 19社(回答率 46.3%)  
(土木3社、建築・大工・左官5社、電機7社、水道4社)

### 3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2024年4月～6月期)より悪化しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が15.8%、「悪化」とする企業の割合が42.1%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は▲26.3ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲11.1と比較しますと、15.2ポイント悪化しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が10.5%、「悪化」とする企業の割合が47.4%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲36.9ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が▲33.3ポイント(前回:25.0ポイント)、建築関係が20.0ポイント(前回:66.7ポイント)、電機関係が▲42.9ポイント(前回:▲25.0ポイント)、水道関係が▲50.0ポイント(前回:▲100.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が0.0%、「悪化」とする企業の割合が31.6%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲31.6ポイントとなり、今期より悪化すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「人材不足」が57.9%、「受注減少」と「原材料・仕入単価の上昇」が47.4%、「労働力不足」が31.6%、「技術力不足」が21.1%、「同業他社との競争激化」が15.8%、「金融難」が5.3%、「人員過剰」、「工期短縮」、「原材料不足」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(6月)と同様のマイナス1ポイントとなりました。製造業は、マイナス15ポイントと2ポイント悪化し、非製造業は、プラス14ポイントと1ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」10.5%、「今はないが、今後好転が見られる」5.3%、「変わらない」42.1%、「今はないが、今後悪化が見られる」26.3%、「悪化している」15.8%。

Q10 ①DXを活用した業務効率化等に興味ありますか。

A 「興味があり、既に取り組んでいる」10.5%、「興味はあるが、取り組んでいない」57.9%、「興味がない」31.6%。

Q10 ②DXに取り組んでいる場合は、その内容を教えてください。また、課題や次に取り組みたい内容があれば教えてください。

A 「零細企業にはDXに取り組む余裕がない。DXがよくわからない。」、「ペーパーレス、インターネットを活用した人員の手配や現場管理、出来高管理や時間外労働の管理など。」

Q10 ③DXに取り組んでいない場合は、その理由を教えてください。

A 「何から取り組んだらいいかわからない」、「取り組みたい分野があるが、専門知識が不足している」とともに26.3%、「取り組みたい分野があるが費用面に不安がある」10.5%、「取り組みたい分野があるが人手が足りない」21.1%、「その他(興味がない)」5.3%、「無回答」26.3%。

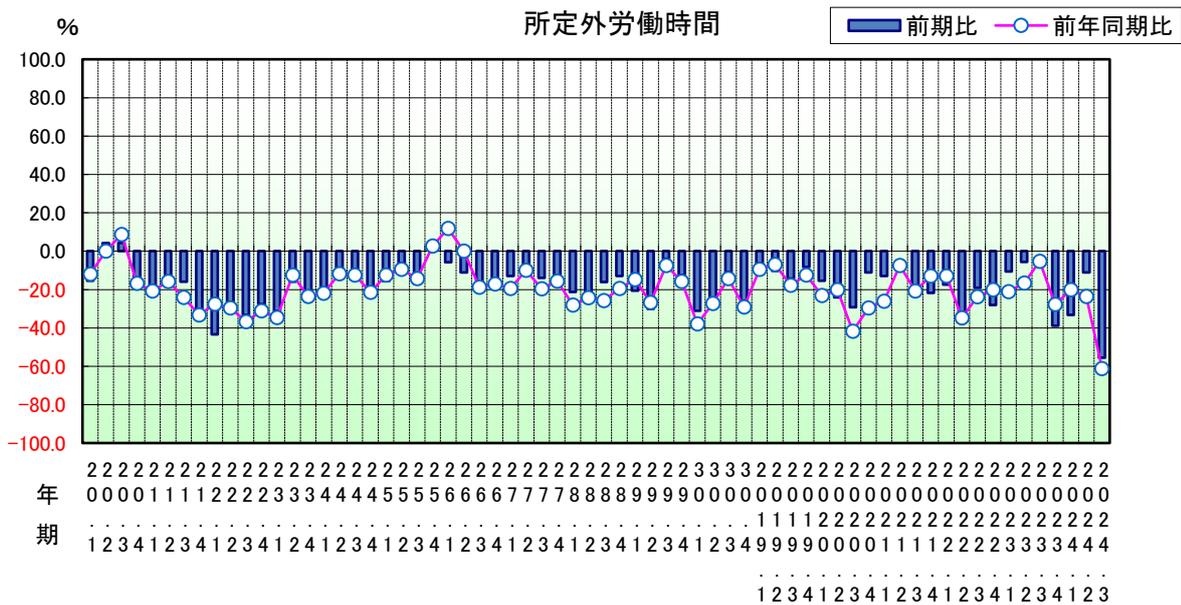
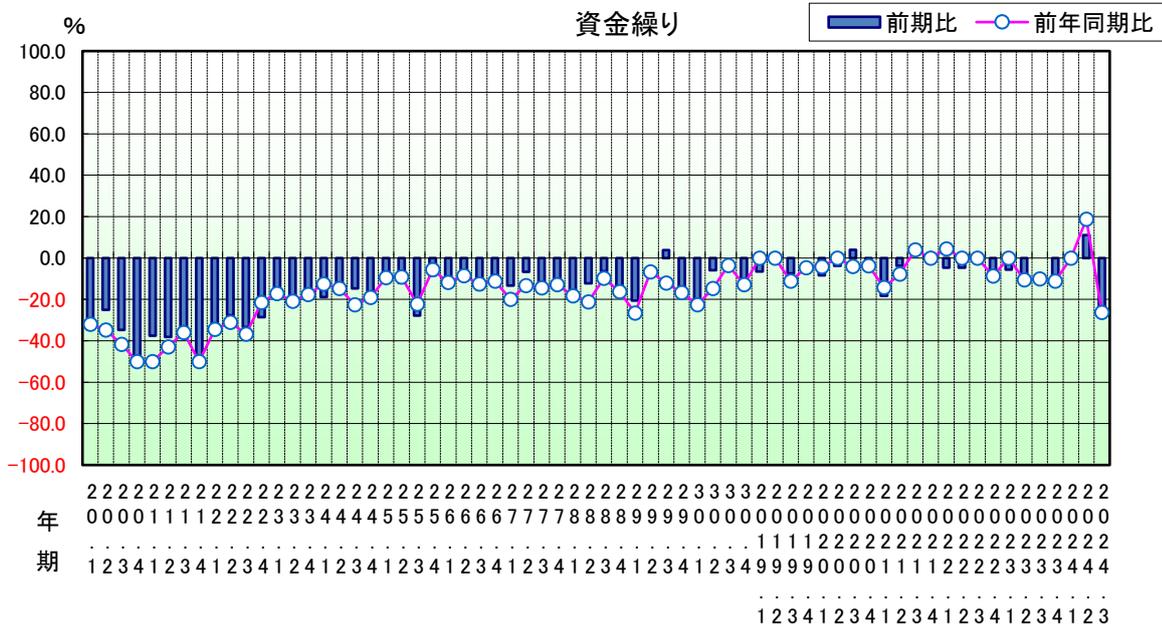
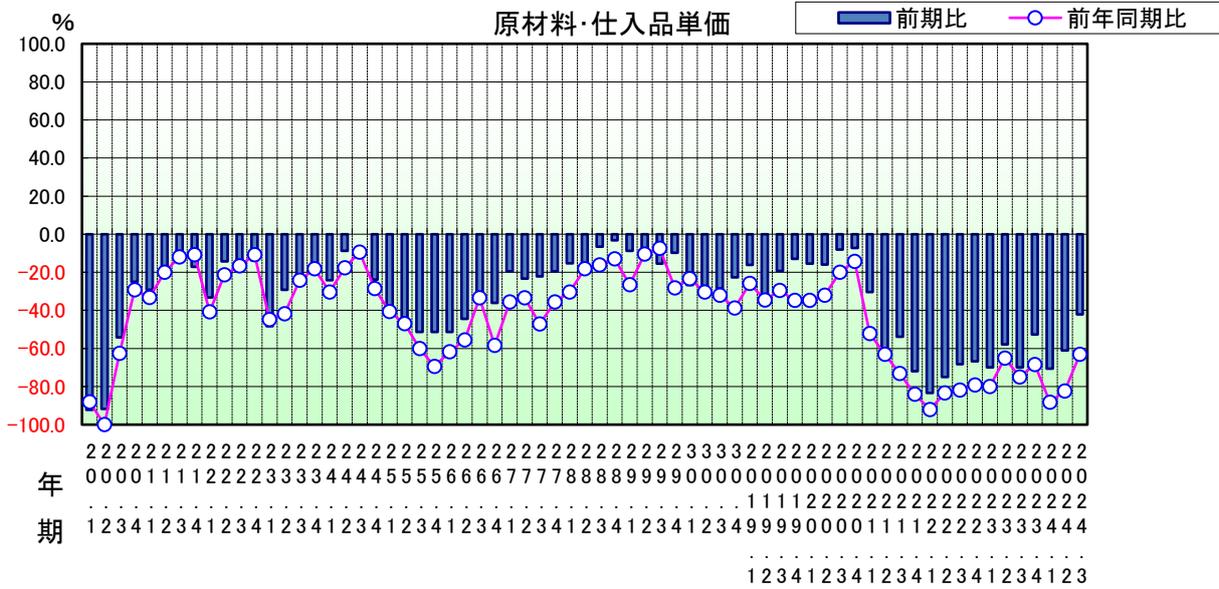
Q10 ④DXについて学べる機会があれば、利用したいですか。

A 「利用したい」42.1%、「利用しない」47.4%、「無回答」10.5%

Q11 その他経営上の問題について

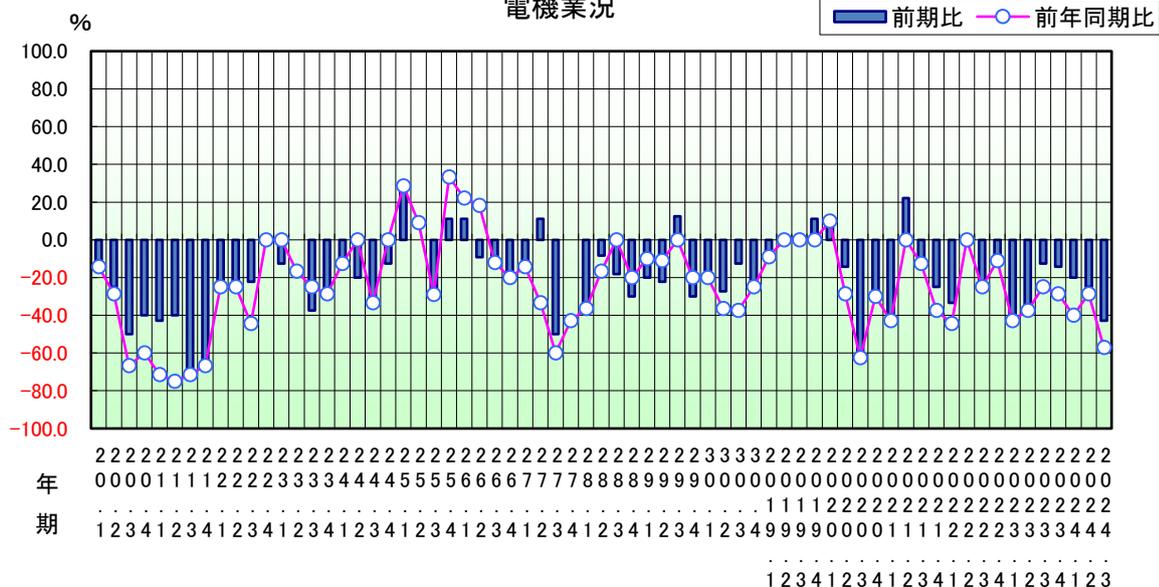
A 「代表の体調不良で開店休業状態です。」、「人材不足の中で、新しい技術やシステムを取り入れ、対応が必要なこと。」







### 電機業況



### 水道施設業況

